

## (5) アルコール

### ① 指標の達成状況と評価

策定時*の値と直近値を比較	項目数	目 標 項 目
A 目標値に達した	1項目	・多量に飲酒する人の減少(男性)
B 目標値に達していないが改善傾向にある	2項目	・「節度ある適度な飲酒」を知っている人の増加
C 変わらない	1項目	・多量に飲酒する人の減少(女性)
D 悪化している	0項目	
E 評価困難	1項目	・未成年者の飲酒の減少
合 計	4項目	

- 多量に飲酒する人の減少については、男性は有意に減少したが、女性に変化がなかった。
- 未成年者の飲酒の減少については、宮城県内のベースライン及び直近値の把握はできなかったため、評価不能とした。全国の結果では、いずれの調査対象でも、飲酒を行う割合は減少していることから、宮城県内でも同様の傾向があることが予想される。
- 節度ある適度な飲酒を知っている人の増加については、有意に増加しており、男女別に見ると、女性の方がやや知識が高かった。

### ② 指標に関連した主な施策

- 自殺対策計画及び自殺対策計画アクションプランの策定
- 心の健康づくり事業（自殺予防対策事業）
- 特定相談指導等事業
- みやぎ出前講座（学校、事業所等）
- ホームページ・健康情報誌等での啓発普及
- メタボリックシンドローム対策戦略事業（健康づくり推進商店街支援事業・働く人の健康支援事業等）
- みやぎ21健康プラン推進事業、みやぎ健康の日普及事業（ホームページや健康情報誌、各種イベント等による普及啓発）

### ③ 今後の課題

- 生活習慣病予防対策の一環として、アルコールや多量飲酒の有害性に関する正しい知識を確実に伝えられるよう、健診などの場の活用や防煙教育と同様、飲酒習慣がはじまる前の教育・啓発普及活動などを行う必要がある。
- 多量に飲酒する人の割合については、男性で減少したが、女性では変わらないことから、多量飲酒低減のための対策をさらに強化する必要がある。
- 節度ある適度な飲酒についても、改善はしているが、目標の100%に対しては大きな乖離があることから、より理解が得られやすく覚えやすいキャッチフレーズなどを検討するなど普及の方法を検討する必要がある。
- 未成年者の飲酒を減らす目標については、喫煙と同様、宮城県のベースライン値及び現況値の把握が行えず、評価が行えなかった。未成年者対象の調査が困難であったこと等がその理由であるが、目標を設定する際には、評価が確実にできるものについてのみ指標として設定すべきである。